

文京区補助金等チェックシート（実績検証用）

所属 福祉部障害福祉課障害者施設担当
問合せ先 03 - 5803 - 1285

6年度調査

1 補助金の名称等

補 助 金 の 名 称	障害者(児)施設防犯対策支援事業補助金									
根 拠 規 定 等	文京区障害者(児)施設防犯対策支援事業補助要綱									
創 設 年 月	平成	29	年	6	月	経過年数 〔自動計算〕	6年	終了予定年月		
見 直 し 年 月			年		月	経過年数 〔自動計算〕				
見 直 し の 内 容										
予 算 科 目	款	項		目		大事業		中事業		計画事業番号
	5 民生費	3 心身障害者福祉費		1 心身障害者福祉事業費		30 障害者グループホーム等整備費補助		1 障害者グループホーム整備費補助		
補 助 金 の 種 別	☐ 奨励的補助 ☐ 施設運営補助 ☐ 扶助的補助 ☒ 投資的補助 ☐ 利子補給									

2 補助金の概要

補助目的	文京区内の障害者福祉サービス事業所等(以下「事業所」という。)に事業所の利用者及び職員の安全確保を図るために行う防犯設備を整備する費用の全部又は一部を補助することにより、事業所の安全性を向上させることを目的とする。					
補助事業等の内容	事業所の安全対策に資する設備の整備に対し補助する。					
補助対象経費の内容	門、フェンス等の外構等の設置・修繕(新規設置を除く)、非常通報装置等の設置経費、その他補助対象者が事業所の安全対策を強化する設備に要する経費。(設備・備品のための購入費用、リース契約に基づく工事、維持管理費等は補助対象外)					
補助事業者等	☐ 区民 ☐ 地域活動団体 ☐ NPO(特定非営利活動団体) ☒ 事業者 ☐ その他 [特定の相手方に補助している場合は具体的に記入]					
補助金の算出	☐ 定率 (補助率) ☐ 定額 (補助額) ☐ 補助単価 (補助単価 単位) ☒ その他 [その他の場合は具体的に記入] 補助基準額1,800,000円 補助対象経費の実支出額の合計と補助基準額を比較して少ない方の額。1,000円未満の端数が生じた場合は切り捨てる。予算の範囲内。 [定額又は補助単価の場合は金額設定の考え方を具体的に記入]					
公募の状況	年に1回、補助対象事業者に意向調査を行っている					
実績報告書時における 使用の確認方法	☒ 領収書 ☐ 契約書 ☐ 決算書 ☒ 成果物 ☒ その他 (事業報告書、補助金 執行内訳)					
補助・単独の状況	☐ 区単独 ☒ 補助(区上乗せ無し) ☐ 補助(区上乗せ有り)	負担割合 上乗せの 内容・理由	区 1/2	国	都 1/2	補助対象者

3 交付実績

(件、千円)

項目	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(予算)
交付(見込み)件数	1	4	3	5
決算(予算)額	1,205	3,249	2,809	5,350
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	603	1,625	1,405	2,675
その他	0	0	0	0
一般財源	602	1,624	1,404	2,675
交付実績の特記事項				

4 補助金の交付の適否に関する基準〔○:適合、△:適合しているが課題あり、×:不適合、-:非該当〕

項目	内 容	判定	判定の理由(△、×の場合のみ記載)
必要性 (公益性)	補助事業等が、社会情勢や区民ニーズに適合しているか	○	
	基本構想、総合戦略、個別計画等の区の政策に適合しているか	○	
	区と区民等の役割分担の中で、区が補助すべき事業であるか	○	
	実施しなかった場合に大きなマイナスの影響が生じるか	○	
公平性	補助要件に該当する補助事業者等であれば、誰でも補助金の申請をする機会が確保されているか	○	
	交付先は適正な手続きによって決定されているか	○	
効率性 (有効性)	補助金の交付以外の代替策はないか	○	
	補助金の交付による効果が認められるか	○	
	補助金額に見合う具体的効果が認められるか	○	
	事業実施の効果が広く区民に還元されているか	○	
適正性 (適格性) (妥当性) ※個人等の 補助金につ いては不要	法令等に抵触していないか	○	
	団体等の活動内容が補助目的と合致しているか	○	
	団体等の会計処理や補助金の使途が適正か	○	

5 効果、課題及び今後の方向性

効果	防犯対策を実施することにより、未然に防止する措置が図られる可能性が高まり、事業者及び利用者の安全に資することができた。
課題	東京都障害者施策推進区市町村包括補助事業等補助金を利用しているため、都補助事業の動向を注視しながら、防犯対策未実施の事業所が生じないよう、事業継続については検討する。
今後の方向性	都との情報共有を図りながら、柔軟に運用していく。